平成25年度施政方針(概要)

全文は、市ホームページでご覧になれます。
http://www.city.naha.okinawa.jp/
お問い合わせ：企画調整課☎098-866-8307

市政運営の基本方針

世界情勢の中の沖縄

米軍のMV22オスプレイの配備計画については、国の安全を守ることの重要性は理解できるものの、そのための負担を当たり前のように沖縄県に押し付け、振興と基地をリンクさせるという、本土と沖縄の間にある認識の壁と差別は、今や看過できないところまできています。

基地は、沖縄の発展の障害でしかありません。未来の子どもたちに、夢と希望あふれる沖縄を引き継いでいくためにも、基地問題解決に向け、身を捨てる覚悟を持って臨んでいきます。

沖縄21世紀ビジョン基本計画と一括交付金

4月から中核市として、新たな道を歩みだします。これまで以上に職員の意識改革に取り組んで、市民サービスの向上に取り組んでいきます。

昨年は、沖縄振興予算、沖縄振興特別推進交付金の配分確保と、その執行による様々な事業展開に努めました。

その信念の下、平成25年度も、沖縄振興特別推進交付金をしっかりと活用し、様々な沖縄振興と発展に資する事業を展開し、県都として沖縄県、ひいては日本の発展を引っ張っていきます。

ハイサイ・ハイタイ運動から始まる文化発信

ウチナーグチは、黄金言葉といわれる沖縄のことわざなどとともに、沖縄のすばらしい精神、肝心(チムグクル)を、沖縄の肝心とともに引き継ぐためにも、ウチナーグチをより多くの市民が日常生活の中で使うことが必要です。昨年から取り組んでいる「ハイサイ・ハイタイ運動」を継続し、御万人(ウマンチュ)がウチナーグチを話す沖縄をめざし、文化面からも沖縄や那覇の振興に取り組んでいきます。

津波など大規模災害への備え

本市の低海抜地帯については、津波に対する備えが急務です。市民の安心安全と地域に貢献する施設として、津波避難ビルの建設に取り組んでいきます。また、島嶼県・沖縄で大規模災害が発生した場合に備えて、非常用食糧や飲料水の備蓄についても充実させていきます。

新総合庁舎は、免震構造や津波対策が施され、一時避難場所として約8千人の収容を可能とするなど、防災拠点としての機能強化も図っています。これらの取り組みは、観光客の安心・安全の確保にも繋がるものであり、観光振興の上からも有益なものになると考えています。

ハイサイ、チューウガナビラ

平成25年度、那覇市は
中核市としての夜明けを迎えます。
さらなる那覇の発展のために
力を尽くしてまいります。
クリカラサヂヂ ヌ ナーファ ヌクトゥヤ マカチ クィミソーリ
明日の那覇は、任せてください!
市民のみなさま、
ユタサルグトゥウニゲーサビラ。

平成25年度主な事業一覧

(単位:千円)

- 小児慢性特定疾患治療研究事業(160,019)
- 校舎等剥離補修業務事業(201,353)
- 小中学校・幼稚園施設環境整備事業(冷房設置)(180,923)
- 基礎学力向上のための学習支援事業(38,074)
- 認可外保育施設保育の質向上事業(115,685)
- 訪問介護員(ホームヘルパー)養成事業(31,989)
- デイゴ・リュウキュウマツ害虫対策事業(10,000)
- 市内湧水水質調査業務(7,634)
- 那覇市内観光周遊バス実証実験事業(167,995)
- 国際通りを中心とした那覇市ICT利活用モデル事業「WiFi化計画」(30,159)
- クルーズ客船ターミナル等における伝統工芸PR事業(25,000)
- びんがた体験型観光施設基本計画策定事業(6,867)
- 小禄クンジー復元支援事業(2,570)
- まちづくり拠点施設(仮称)施設整備事業(482,009)
- 伯亜移民105周年およびサンビセンテ市姉妹都市提携35周年記念事業(5,939)
- 窓口業務外部委託事業(106,573)
- 津波避難ビル建設事業(59,972)
- 「昭和のなは」復元模型製作事業(16,950)
- うちなーぐち発信事業(4,149)
- 歴史散歩道整備事業(249,700)
- 桜の名所づくり事業(12,000)

協働から紡ぐ沖縄らしい優しい社会

市民との協働によるまちづくりは、就任当初から掲げてきた市政運営の基本方針です。3期12年の間、市民自らまちづくりに取り組む環境づくりを進めてきました。4期目は特に、協働の仕組みの完成を目指して取り組みます。そのため、銘苅庁舎の後利用として、まちづくり拠点施設の設置を目指します。その施設が、住民自治の発展と、「ちゅい 助き助き」の沖縄らしい優しい社会づくりにつながる、市民協働の核となって大きく羽ばたくことを期待しています。

風格ある観光交流都市へ

那覇空港の第二滑走路整備事業については、国際物流拠点、観光振興、海外交流など、沖縄の振興発展の大きな力になると考えており、新たな沖縄振興の最重要施策のひとつとして大きく期待しています。

昨年は、ベトナム・ホイアン市のごみ減量のため、様々な形で協力しました。今後は市民参加のごみ減量計画策定でも協力します。このような草の根的な国際協力関係を広げることで、友好と信頼の絆が生まれ、国家間の利害対立を超えた協調と発展の道が拓けると考えています。

予算編成

一般会計予算は、1280億8千8百万円で、対前年度比24億6千5百万円、2.0%伸びています。

歳出予算の伸びは、沖縄振興特別推進交付金事業の実施や中核市移行に伴う経費の増、および生活保護費など扶助費の増によるものです。

歳入予算では、沖縄振興特別推進交付金、中核市移行に伴う増分を含めた地方交付税約154億円、また、市たばこ税の増などによる市税約406億円を見込んでいますが、結果として約26億円の収支不足となり、財政調整基金約21億円、減債基金5億円を取り崩して対応しています。

企業会計を除く特別会計予算は、総額686億8千万円で、対前年度比18億1千万円、2.5%の増です。

特別会計予算の増額は、国民健康保険事業特別会計、介護保険事業特別会計の増などによるものです。

国民健康保険特別会計では、平成24年度の累積赤字が約41億円に達する見込みです。このため、一般会計から5億円を政策的に繰り出し、国保の構造的な赤字体質の改善および制度の抜本的改善を目指します。また、引き続き徴収率の向上に努めます。

平成25年度 主要事業

心地よいつながりでつくる自治・協働・平和都市

(協働による まちづくり)
- 与儀、石嶺、若狭、銘苅の4地区で進めている小学校区コミュニティモデル事業に対する支援の継続と、その効果の検証作業。
- 「なは市民協働大学」の継続。

(幸せ感のあるまちの創出)
- いじめや将来のDV防止に繋げるため、「思春期の心と体」のための意識啓発事業を継続。

(平和交流・男女共同参画)
- 姉妹都市提携35周年を迎えるサンビセンテ市および移民105周年を迎えるブラジル、アルゼンチンへの友好訪問。
- 那覇軍港の跡地利用について、地主会と連携し、地権者の合意形成に向けた取り組みを継続。

(市民に開かれた効率的な行政)
- 中核市移行に伴う、外部監査制度の導入。
- 市民課窓口の外部委託事業の推進と、市民サービスの更なる向上および効率化。
- 戦災で失われた戸籍の再製のため作成された、沖縄関係戸籍の電算化事業の実施。
- ファシリティマネジメントの導入推進。

地域力を活かし、生きがいをもって支えあう健康都市

(健康づくりと地域医療の充実)
- 地域保健の中核的役割を担う那覇市保健所の開設。
- これまで県と市が分担してきた母子保健業務や精神保健業務の一元化。分かりやすい相談窓口体制の構築と、きめ細かなサービスの提供。
- 高齢者肺炎球菌ワクチン、子宮頸がんワクチン、ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンの4種の予防接種に対する公費助成の継続と、予防医療の推進。
- 「健康なは21」推進整備事業及び特定健診の受診率向上への取り組みの継続。糖尿病予防戦略事業、進事業、慢性腎臓病予防啓発事業の実施による生活習慣病対策の強化。

- 市内の湧水の水質調査の実施。水資源の有効利用、地下水の涵養を推進し、雨水施設等設置に対する補助の継続。

(衛生的な環境の確保)
- 犬、猫の飼い方指導継続。動物愛護精神を醸成する施設の建設に向けた取り組み。
- 老朽化している識名霊園の北納骨堂を、新納骨堂に建て替える本体工事への着手。

子どもの笑顔あふれる、ゆたかな学習・文化都市

(生涯学習の推進と地域の教育力の向上)
- 漫湖公園市民庭球場などの体育施設の補修整備の実施。
- 「児童のスポーツ県外派遣補助金」の充実。
- 老朽化した石嶺公民館・図書館の冷房機器の取替え。
- 牧志駅前ほしぞら公民館のプラネタリウムの番組の作成。

(子育て支援と就学前教育・保育)
- 高額な特定不妊治療を受ける市民の負担軽減のため、費用の一部助成。
- 待機児童解消のため、老朽化した法人保育所の増改築の補助。
- 認可外保育施設の乳幼児への給食助成事業の拡充。
- 市立保育所の幼児を対象に、「伝統文化継承種まき事業」を継続実施。
- 幼稚園在園児に対する預り保育の拡充。
- 泊、真嘉比、大名、与儀の幼稚園舎建設。
- 前島・久茂地小学校統合新校の幼稚園の整備。
- 前島・久茂地小学校統合新校、真嘉比小区、与儀、大名の4つの児童クラブ舎の建築事業を推進。
- 児童クラブへの家賃補助の増額。

(ユニバーサルデザインのまちづくり)
- 身体障がい者用駐車スペースの適正利用についての意識啓発を目的とした、専用の利用証交付。
- 発達障がい者本人や、関係者の相談対応、発達障がい者の地域生活支援事業の実施。

(ともに生きる心を育てる)
- 第3次那覇市地域福祉計画の策定。
- 成年後見制度が必要なすべての方が制度を利用できるよう、那覇市社会福祉協議会による法人としての受任事業の立ち上げの支援。

(地域の支えあい)
- 市内のホームレスを把握し、生活や医療などの相談を通じた、社会的自立への支援。
- 高齢や障がいなどにより、日常的に金銭管理等で課題のある保護世帯に対する支援の継続。

(自立を支援するサービス提供)
- 高齢者支援の強化を目的とした、地域包括支援センターの市内12か所への拡充設置。
- 中核市移行に伴いこれまで県で行っていた身体障害者手帳の認定・交付事務の効率的実施。
- 障がい者の自立生活を支援するための、介護や生活訓練などの障害福祉サービスの継続実施。障がい者の就職を支援する「障がい者就労支援事業」の実施。
- 障害者虐待防止対策支援事業の実施。
- 就労意欲はあるものの、解雇、離職などによって住居を喪失、あるいは喪失する恐れのある市民に対する、住宅手当の支給。

(資源循環型社会)
- 「ちゅうらティーダスポーツ広場」の付帯施設の整備。
- 産業廃棄物対策事業の円滑な実施。産業廃棄物の適切な処理の推進。

(自然環境の保全・再生・創造)
- 緑のカーテン・屋上壁面緑化推進事業の継続。

人・自然・地球にやさしい環境共生都市

(地球環境への配慮)
- 太陽光発電システム、太陽熱利用システムの住宅への導入に対する助成の継続。環境基本計画の策定。

(まちの活性化)
- 農連市場等の相対売りの伝統を継承発展させるため、準備組合調査の支援。
- 頑張るマチグワー支援基金を活用した中心商店街などの支援。ひやみかちマチグワー館を拠点としたイベント事業などの推進。
- 「てんぷす那覇」前に設置する大型ビジョンやWi-Fi環境整備を通じた、観光や地域・店舗情報などの発信。

(就労支援・相談体制)
- 「重点分野雇用創出事業」を活用した、IT産業における適材適職による継続雇用推進の継続。若年者の雇用の確保、那覇市就職なんでも相談センターを拠点とした就職相談及び各種セミナーなどの開催。
- 多様化、複雑化する消費相談に対応する相談員などのレベルアップ。
- 消費生活に関する啓発講座などの開催。

安心・安全で快適な亜熱帯庭園都市

(都市防災と防犯)
- 新総合庁舎駐車場の賃付収入を活かした、自治会などの保安灯の設置および電気料への補助の拡充。
- 津波へ対応するため、低海抜地帯にある小中学校の3階以上の屋上を緊急避難場所としての整備。
- 小中学校施設の耐震診断の実施。
- 民間住宅の耐震診断、耐震改修設計および耐震改修工事に対する補助の継続。
- 化学消防車の導入。
- 消防署の適正配置の推進。

(市街地の整備)
- 久場川、石嶺、字栄原、大名の各市営住宅の建替事業の継続。
- 農連市場地区市街地再開発事業の継続。
- 戦災復興区画整理の歩み事業としての記念誌の発行。
- 狭あい道路の整備に対する補助の継続。当該道路の管理システムの更新。

(交通体系の整備)
- 石嶺駅前線の交通体系整備の着手。石嶺線など9路線の都市計画道路と身近な生活道路整備の継続。
- 世界遺産などを巡る歴史散歩道の整備。
- 市内主要道路の街路樹の剪定、植樹帯の除草や植樹の実施。
- 「なはモビリティーウィーク&カーフリーデー」の実施。「モデル性の高い基幹的公共交通」の段階的導入に向けた実証実験、バス停上屋の整備など、公共交通機関の利便性向上に向けた取り組みの継続。
- 市の管理する101の橋梁の、長寿命化修繕計画に基づく、効率的・効果的な対策の開始。

(上下水道の整備)
- 「水道施設更新(耐震化)基本計画」に基づく、国道507号線、県道11号線での施設の耐震化の推進。配水系統中ブロックの元管理のための通信設備の整備。
- 汚水管敷設整備の継続。浸水対策として、西地域および首里石嶺地域などでの雨水施設整備の推進。また、地震対策として久茂地地域の耐震化を進める他、大規模災害時に備えた、新都心公園へのマンホールトイレの整備。
- 再生水事業では、供給区域を松尾地域への拡大と、施設整備の推進。

(自然と調和したまちなみ)
- 屋外広告物適正化推進計画の策定。
- 首里大中町など、都市景観形成地域の指定に向けた取り組みの推進。
- 首里、真和志、小禄地区の樹木の名所づくり。
- 沖縄を代表するデイゴ、リュウキュウマツの植栽を害虫から守る対策の継続。
- 草花やプーゲンビレアの苗配布事業の継続。

結びに

4期目の市政運営では、中核市・那覇にふさわしい夢あふれる事業展開を進めていきます。

ソフト交付金を活用した事業では、福州市との友好のシンボルとして巨大な龍のモニュメントを整備する他、那覇大綱挽など本市の三大祭りを観光振興に活かすための調査研究事業をスタートさせます。さらに歴史博物館では、国宝の琉球国王の王冠の複製を作り、常設展示を目指す他、市内の旧跡・歴史的地名標示を整備を進めて、観光資源として活かしていきたいと考えています。

Jリーグの公式戦の開催が可能なサッカー場の建設についても、国と交渉を重ねて、具体的な整備に向けた全計画を策定して、着実に推進していきます。

これらの事業が、芽吹き、実を結んだ那覇の未来に思いを馳せながら、夢あふれる未来を次代に引き継いでいきたいと考えています。

国政が大きく転換した中で、基地問題の解決をとってみても課題は大きく、市民・県民はさらに心をひとつにして歩んでいくことが重要となってきています。私の目指す「風格ある県都・那覇」は、その意味においても中核市にとどまることなく、さらに日本を代表する、アジアの交流拠点として雄飛していかなければなりません。

市民のみなさま、ともに中核市・那覇の輝かしい夜明けに向けて歩み出しましょう。

ユタサルグトゥ ウニゲーサビラ。イッペーニフェーデービル。

平成25年2月19日 那覇市長 翁長雄志

平成25年度市民税・県民税兼国民健康保険税の申告はお早めに! 日3/15(金)までの平日および 3/10(日)の9時～16時受付 場 市民会館中ホール(市民税課☎861-3328)